



昭和60年8月

・編集・発行

柏市増尾近隣センター運営委員会・広報部

増尾近隣センター

〒277 柏市増尾1614番地(74)7211

揮毫/吉田 稔

## シルバー旋風! 土支部

### 第7回「シルバー運動会」V2達成!

市内の老人クラブ（10支部）を対象にした柏市主催による福祉活動の一環として、7年前から「シルバー運動会」が催されているが、毎年に活気をみなぎらせている。

今大会で二度目の団体優勝を力強くもつた土支部のむかし若人の精鋭ぶりを紹介しよう！



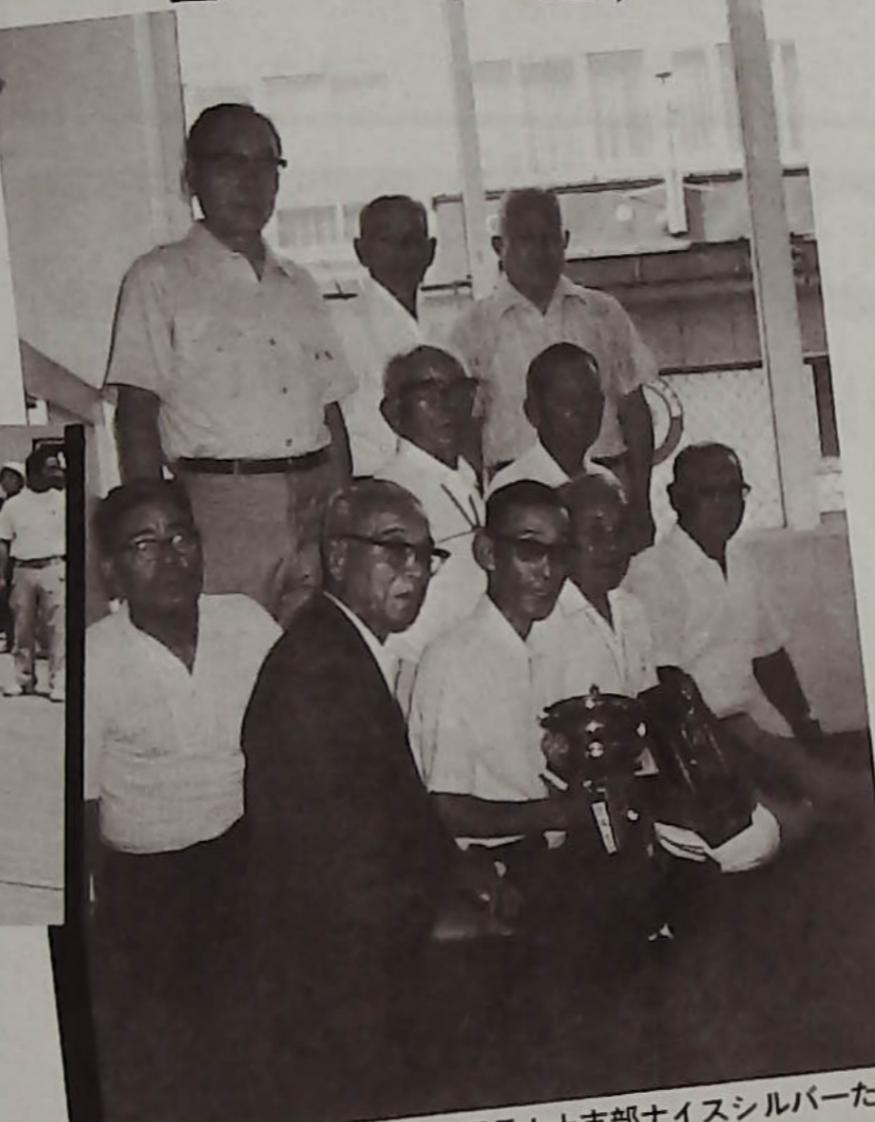
去る6月2日（日）、快晴のもとに柏第三小学校で行われた第7回シルバー運動会は、柏市内の全老人クラブ10支部、参加者はなんと総勢770人と言うから一大イベントである。もちろん会場は熱気ムンムン。

土支部からは、人生60年有余、海千山千の修羅場をかいくぐってきた筋入り60人の精鋭隊が、出場。

ひき入る隊長は東條氏、という「名」を聞けば第二次世界大戦の暗雲を思いうかべ、身ぶるいしそうであるが、お人柄は実に温厚篤実。眼鏡の奥からのぞくやさしい眼差しは、長く教育者として大任（校長）を全うされた賜で、暖かさで包みこまれそうである。

3年前の第5回大会で初優勝、めぐる第6回大会は惜しくも準優勝、そしてこの度の第7回大会では、2度目の団体優勝。ナイスシルバー土支部天晴れの成果である。

戦後の流行用語に「靴下と女性が強くなった」と語り伝えられてきましたが、この分だとシルバー族の若返りパワーも、その用語の中に入れても決して不自然



優勝カップを手にする東條団長と土支部ナイスシルバーチーム

ではない？ 女性の志気、地位向上が、一説によると文明レベルのバロメーターとか言われていますが、シルバーパワーもそのひとつと言っても言いすぎではないように思われる。

とかく批判的となる五無主義の若ものたち。働き過ぎて疲れが昂じ、血迷ったあげく立身出世を諦め、やや（？）気力を失って居直っている分別盛りの中年諸氏。美食と余暇とかの充実で、脂肪のカタマリが下腹にこびりつき、悩み嘆きの若き淑女、ご婦人たちよ！ 見なされ、むかし若人の土支部精鋭隊の澁刺たる意気込みを……。（ちょっとオーバーかな！）

大会は、団体競技3種目、個人競技5種目の計8種が行われたわけだが、優勝にかかる種目は団体競技

のみであるから、なんといってもチームの統率力と集中力がものを言う。隊長は語る「なんといってもマトリのよさにはどこにも負けない」と自信の弁。

現役を引退されながら、なお仲間と協調し一丸となって、ナニかに挑もうとする意気には、若人の美しさに匹敵する初々しさを感じさせるものがある。

シルバー土支部！ 来年もV3を目標に、ますます堅い団結と和氣あいあいの場でありますよう。

**6/2日「ゴミ0の日」**

環境美化キャンペーン

市長も直々の激励参加！



恒例となった年一度の環境美化運動には、直々鈴木真柏市長も激励にみえ、センターから打ち上げられた花火を合図に一斉に開始。盛んな住民の参加に市長もご満悦の様子であった。来年もまた一層の盛りあげに、こぞっての参加を――。

#### 参加団体及び人数

- (1) ボランティア参加団体………18団体
- (2) ボランティア参加人数………2,500名
- (3) 市職員参加人数……………9名

#### ゴミ収集量

- (1) 空き缶…35袋 (2) 空きビン…20袋
- (3) 可燃物…15袋 (4) 不燃物…23袋

#### 昭和60年度柏市増尾近隣センター運営協議会及び運営委員会の新役員決まる

役職名	氏名	役職名	氏名
運営協議会会長	東條 博夫	専門部保健体育部長	森崎 甚市
” 副会長	友野 忠義	” 副部長	藤井 弘教
” ”	岡本 幸子	” ”	中原 嵩男
” 会計	有馬 松雄	文化部長	山本 久
” ”	山崎喜以子	副部長	工藤 和男
会計監査	神宮 初雄	” ”	新保 昌也
” ”	塙田 哲也	福祉部長	戸村 英吉
” ”	木内 義雄	” 副部長	吉池 秀夫
運営委員会委員長	吉田 稔	” ”	菊池 茂
” 副委員長	山口 薫	広報部長	河野健一郎
” ”	高頭 宏信	” 副部長	伴 好右
” 兼事務局長	高頭 宏信	” ”	高橋 彰夫
” 事務局次長	山口 薫	増尾近隣センター長	石井 和人
” 事務局委員	濱田 竜一		
” ”	福原 松男		
” 会計	有馬 松雄		

#### 柏市増尾近隣センター運営協議会

#### 昭和60年度歳入出予算

単位円

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
市補助金	3,176,000	運営費	
1. 事務費	250,000	1. 事務費	302,000
2. 事業費	1,000,000	(1)総会費	40,000
3. 人件費	1,676,000	(2)会議費	110,000
4. 広報活動費	250,000	(3)消耗品費	60,000
町金分担金	52,000	(4)通信費	10,000
59年度繰越金	356,159	(5)雜費	82,000
		2. 事業部	1,250,000
		(1)広報部	350,000
		(2)保健体育部	400,000
		(3)文化部	370,000
		(4)福祉部	130,000
		3. 人件費	1,676,000
		4. 予備費	356,159
合計	3,584,159	合計	3,584,159

#### 増尾近隣センター運営協議会

#### 昭和60年度事業計画

事業部	時期	予算額(円)	担当部
「ふるさと発行」 (定期の外臨時号随時発行) その他行事開催時の記録収録、又その展示発表等	定期 7月号 正月号	350,000	
文化祭 碁将棋大会 各種講座	11月 1月 通年	370,000	文化部
春季内大会 球技祭 一般大会(地区内一般参加) 卓球・バドミントン講習会	5月~6月 10月 1月~2月	400,000	保健体育部
ゲートボール大会 芸能大会 他「敬老会、ふれあいの集い」の行事に協力	9月 61年3月 9月 11月	130,000	福祉部
合計		1,250,000	

# 秋の「行事日程」決る!

9/29(日)

## 敬老会

土地区の招待者750名の方々をお招きして敬老会の式典につづき演芸などが体育館で、本館2階の和室では、表千家社中のお茶席を設け抹茶サービス。毎年好評!



11/3(日)・4(月)文化祭

恒例の文化祭は、日頃精進された地域のみなさまの文化活動の成果——素朴な作品、入魂の大作など、見る人の心にうるおいと楽しさを——その数々を一覧。

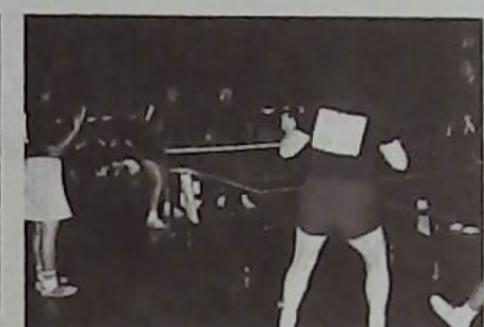
## 11/3(日)ふれあいの集い

老若男女三世代の交流の場をつくる行事。当日は演芸大会、屋外での餅つき、焼きそば、フランクフルト、野菜などの格安即売と、こらした趣向いっぱい。

10/8(火)

## 球技祭

健康な体力づくりと、日頃練習に励んだ技術の成果を保体部(バレー・卓球・バドミントン・美体・ゲートボール)による競技会、各部員相互の交流、親睦を計るレクなど。



## ☆ 春季部内大会 入賞チーム・入賞者名発表

保体部の三部門…バレー・卓球・バドミントン  
それぞれがトーナメント方式で行われた。優勝、準優勝、3位までの入賞者は下記のとおりです。

### ●バレー・ボール●

<Aブロック>		<Bブロック>	
優勝	はくしん	優勝	土小チーム
準優勝	今谷チーム	準優勝	土南チーム
3位	センターチームA	3位	センターチームB

### ●卓球●

<Aブロック>		<Cブロック>	
優勝	渡辺裕子 大竹しん子	優勝	吉岡恵美子 三上トキ
準優勝	石本恭子 斎藤サチエ	準優勝	三上芳江 巍 和子
3位	首藤和子 藤木律子	3位	武内洋子 木之下由美子

### ●バドミントン●

優勝 Hチーム	森作紀子・秋田よし子／岡室美智代・浅原美喜子／君島みどり・樋田とみこ
準優勝 Aチーム	綱野なを子・渡辺静江／石毛和子・温井朗子／保田靖子・武藤恵子
3位 Gチーム	大沢テル子・菅野節子／元山純子・大友さち子／川野晴子・井手口成智子

<Bブロック>		<Dブロック>	
優勝	青木みづえ 川城恵子	優勝	椎野八重子 吉原久江
準優勝	高野恵美子 水谷輝子	準優勝	早川富子 梅津美代子
3位	栗原タミ子 畠間美知子	3位	坂下のり子 町田洋子

## シルバーレポート

### 土支部老人ゲートボール大会!

恒例による支部春季大会は、つゆ時の快晴に恵まれた6月16日(日)藤心小校庭に設けたコート4面で行なわれた。支部内老人会から17チーム、110余名の選手が参加し、日頃練習の腕前を充分に發揮して熱戦が展開された。その結果、優勝 柏藤会A、二位 増尾新星会、3位 柏藤会Bが栄誉にかがやいた。

この大会で審判は各チームから一名宛てて自動的に公正に行なわれたが、この競技の特質上まことに意義深い。また7月8日柏市十余二に専用コート10面が竣工し、その記念大会には24チームが参加、当支部より柏藤会、新星会、緑寿会の3チームが出場敢斗し入賞の好成績をあげることができた。

なお柏市は南部プールの隣りにもゲートボール場1面を新設しました。この地域の爱好者が、健康とふれあいの場として大いに活用せらることを望んでいます。(土支部・部長東條博夫氏によるレポート)

## 夏休み子ども卓球教室

### ○生徒 募集!

夏期休暇を利用して下記の要領で増尾近隣センター体育館に於いて「夏休み子供卓球教室」を専門コーチを招き開催されます。

この教室への参加希望者は所定の期日・時間に会費を添えて増尾近隣センター窓口に直接お申し込み下さい。

★

●主催 増尾近隣センター運営委員会

●日時 8月22日・23日・24日  
午後1時~3時まで

●対象者 小学4年生以上………20名  
中学生……………20名

●受付日 8月19日  
午前10時~午前11時

●会費 300円(保険料を含む)

●持参するもの 運動し易い服装・室内用運動靴  
・ラケットを持っている方は持参して下さい。

★お問い合わせ ☎ (72) 8436(酒巻まで)



## 作って食べる喜び昂じて5年目

### 木曜料理クラブ

世話役の長  
小山玲子さん

この「木曜料理クラブ」は、増尾近隣センターオープンの年、昭和56年にセンターの企画推進で、料理講座(10回課程)が設けられ、それ以後、地道ながら現在に至っている。初回の講座から欠かさず受講された小山さんが、講座の世話役の長として、はや5年目を迎えている。

講座の内容は、月2回(第1・3の木曜日)で、常日頃の食生活に即したお惣菜を中心、和洋中とレパートリーは、はばひろい。加えて正月時季にはお節料理からはじめて、おひな祭はサクラ餅、五月節句はカシワ餅、クリスマスにケーキづくりと、ライフサイクルに沿ったお役に立つ講座内容である。

昨今はスーパーの軒先には、ご婦人方の台所作業の手抜きをそぞる代物が目白押しで、時にそれが食卓を席捲してしまう、「唇寒し夕餉の食卓」となってしまったりする。こうした現代流に逆らって下さる「木曜料理クラブ」のご婦人たちのモットーは、料理には手をかけ・心を入れこむことだそうだ。心強くもあり、ヨダレのしたたる程にありがたい。

中国に「医食同源」という古事がある。漢方医学から生まれた古えの賢人たちの知恵で、理にかなった食生活が健康人の柱、とする考えです。

「食べものを美味しく食べるか否か」つまり食欲の有無が、健康人であるかないかの境い目だと言う。

今年もこのほか暑さ厳しい夏、夏バテで食欲不振は病気のはじまり(?)、こんなご仁には「手をかけ・心を入れこんだ料理」が、最上の良薬といえましょう! 心にハッと何かを感じ「木曜料理クラブ」の門を直ぐにでも叩いてみようと思いついた賢婦人には、少々残念ですが、現在この講座はフルメンバー。欠員ごとに漸次入会していただいているのが現況。欠員情報をいち速くキャッチしてご入会あれ!

「木曜料理クラブ」連絡先  
部長 小山玲子さん  
TEL 72-1077

